

# 入試 性差別認めぬ規範

## 全国学部長会議 医学部違反は処分

一連の医学部入試不正を受け、全国医学部長病院長会議(会長・山下英俊・山形大医学部長)は16日、性別による点数操作は許されないとする、医学部入試についての規範を公表した。卒業生の親類枠や地域枠など各大学の実情に応じた人材を求めるることは認めつつ、入学者の受け入れ方針に明示するよう求めた。

## 親類・地域枠容認

各大学は、来春の入試から、規範に沿った対応が求められる。また、文部科学省は過去の入試について、問題があれば自主的に公表するよう求めてお

### 医学部入試についての小委員会の考え方

属性	取り扱いの差の評価	理由や留意点など
性別	×	女性を理由に差異は不適切
浪人年数	△	不適切。地域枠では実情に応じて可
内部進学	○	入学者の受け入れ方針公平性を確保
の卒業生の親類枠	○	社会に説明可能な範囲内で、入試要項に明記
地域枠	○	

覚し、会議は小委員会を設置。性別や浪人の年数、内部進学、地域枠など、様々な受験生への公平な扱いについて議論してきた。規範では、「国民から見て公平か」「よい医療人の

## 診療科で男女偏在■都市に集中

### 医療現場の変革望む声

医学部入試で受験者の性別で差をつけてきた背景には、診療科による男女の偏りや都市部への偏在など、医療界が抱える問題がある。専門家は一連の入試不正を社会全体で考える契機にすべきだと指摘する。女性医師は子育てなどで現場を離れたり、勤務が制限されたりすることが少なくない。2016年の厚生労働省の調査によると、外

務が強いられる診療科では

女性は1割にも満たない。

皮膚科(47%)や眼科(38%)などで割合が高く、特

定の診療科に偏っている。

女性外科医のキャリア支

援を続ける日本女性外科医

会役員の明石定子・昭和大

学准教授(乳腺外科)は「入

院

」などと答えた。辺見さんは

「出身地とは離れた地域で

も何年か診療できる若い人

材が求められていることを

理解して欲しい」と話す。

働きやすい病院の認証事

業を手がけるNPO法人イ

ージェイネットの瀧野敏子

代表理事は医療機関の合理

化を進めることも重要だと

指摘する。軽症患者の夜間

であってもキャリアを積め

る仕組みが必要だと話す。

医師の労働条件が改善で

きない理由の一つに、都市

に医師が集中し、へき地で

深刻な医師不足になってしま

る実態がある。辺見公雄・

全国自治体病院協議会会長

は「最近は『すみば

都』ではなく、『都がすみ

か』という傾向がより強ま

っている」という。

同協議会が地域医療を支

える自治体病院に今春行

ったアンケートによると、医

師の労働時間短縮につい

て、48%が「実施できな

い」と答えた。辺見さんは

「出身地とは離れた地域で

も何年か診療できる若い人

材が求められていることを

理解して欲しい」と話す。

容認。委員長を務めた嘉山孝正・山形大参与は「親が医療人であれば医師になるのをやめにくく愛校心が強い」などと説明した。ただ、不正をうむ余地があるなどとして、要件の明示や特定の人物が合格を判定し、説明可能な範囲の年齢により

ない制度にすることを前提にした。今後さらに議論が必要だとした。  
違反した場合は、会議から除名するなどの処分対象とする。嘉山委員長は「規範は重いもので、破るのは非常に悪質と言える」と話した。

(小坪遊、月鏡彩子)